



長崎が「がんばくん」「らんばちゃん」と一緒に

7年前、採用担当者として多くの就活生と触れていた私は、「最も大切なのは、そこで『何ができるか』ではなく、そこで『どう生きることが出来るか』。『地方自治』の仕事の内容だけでなく、職員の人柄、そこで得られる経験を含めて、人生を賭ける仕事に値するか考えて欲しい」と話してきました。他のどの省庁や仕事にもない総務省の地方自治の仕事の魅力、それは「多くの地方勤務を通じて、多種多様な人々の暮らしや思いに触れ、日本の現実に目を向けながら、国のあり方そのものを改革すること。地方自治の仕事を通して自分の生き方そのものを多彩で豊かなものにすること。」にあると考えていたからです。そして、今、私は日々その思いを新たにしながら、二度目の地方勤務で赴任した長崎県において、4つ目の役職である財政課長としての職務にあっています。

県政の司令塔として

総務省の職員が地方自治体に赴任する場合、その多くは、20代から30代の若いうちから、地方自治体の「司令塔」として、教育・福祉・産業・土木などのあらゆる政策を俯瞰した上で、新たな政策の構築・推進や人事・財政面での組織マネジメント等に関わることになります。私もまた、長崎県で政策企画課長、財政課長として、県の総合計画、地方創生総合戦略、経済成長戦略の策定・推進や予算編成等の仕事を担ってきましたが、

日々勉強、日々成長の充実した時間を過ごしています。

長崎県については、出島をはじめとした開国の歴史や異国情緒あふれた町並みなど、観光のイメージを持っている方が多いかと思いますが、対馬・舌岐・五島などの離島を多く抱え、水産業は燃油高騰や魚価低迷にあえぎ、製造業が少なく好景気の影響を受けることができないなど、経済的に厳しい環境にあり、人口減少先進県でもあります。このような環境の中、軍艦島やキリスト教教会群の世界遺産登録、海洋エネルギーの研究拠点形成、全国和牛能力共進会で日本一を獲得した長崎和牛の販売戦略など、県・市・民間団体が一丸となって、起死回生に向けた新たな政策を推進しているところです。

私自身は、地方創生を実現するための新たな政策群を構築すること、財政健全化に向けた道筋を立てること、を自らの使命と位置づけて、中小企業振興、県内就職促進、女性活躍促進などの各種政策分野における新たな戦略の構築に取り組むとともに、他県との財政構造比較と情報の丁寧な公表による対話を通じた財政健全化計画の策定に力を注いでいます。

「人の思い」を大切に

学生の皆さんに特に知って欲しいのは、「人の話をよく聞き、その思いを受け止めること。人に

そこで
「何が
できるか」
ではなく、
そこで
「どう
生きるか」

長崎県 総務部 財政課長
前田 茂人 Shigehito Maeda

- 平成19年 4月 総務省採用
同 自治行政局選挙部選挙課
- 平成19年 8月 静岡県総務部企画監(自治行政担当)付
- 平成19年 11月 同 企画監(財政担当)付
- 平成20年 4月 同 財務局財政室
- 平成21年 4月 総務省大臣官房秘書課
- 平成22年 7月 同 自治財政局地方債課
- 平成24年 8月 長崎県企画振興部地域振興課企画監
- 平成25年 4月 同 環境部未来環境推進課長
- 平成26年 4月 同 企画振興部政策企画課長
- 平成27年 4月 現職

自分の思いを受け止めてもらうこと。」なしに、「地方自治」の仕事はできない、ということ。逆に「人の思い」を大切にしながら仕事をしたい人にとって、「地方自治」ほど面白い仕事はない、ということ。総務省で皆さんと思いを一つにして働ける日がくることを楽しみにしています。



中村知事へ来年度予算について説明



長崎の方々と離島にて

30年後の
社会に
想いを
馳せて

内閣府 公益認定等委員会事務局 総務課 課長補佐(法令担当)
鈴木 優一 Yuichi Suzuki

- 平成15年 4月 総務省採用
同 行政管理局企画調整課
- 平成16年 10月 同 行政管理局(文部科学省・公正取引委員会担当)
- 平成17年 4月 同 人事・恩給局公務員高齢対策課
- 平成18年 1月 内閣官房行政改革推進事務局係長
- 平成18年 7月 総務省人事・恩給局公務員高齢対策課再就職係長
- 平成18年 12月 行政改革推進本部事務局係長
- 平成19年 7月 総務省政策統括官(統計基準担当)付総括担当主査
- 平成20年 8月 同 行政管理局行政改革総括主査
- 平成21年 7月 福岡市市民公益活動推進課長
- 平成23年 7月 内閣官房内閣総務官室国会専門官
- 平成25年 8月 同 行政改革推進本部事務局参事官補佐
- 平成26年 7月 現職

社会をよくしたい、人の役に立つ仕事がしたい、そんなことを漠然と考えながら、総務省に入省したのは今から13年前です。自分自身の生活環境も変わり、今は、自分の子どもや孫の世代に、どんな社会を遺してあげられるだろうかと、もう少し現実感と危機感をもって考えるようになりました。

福岡から国会へ

私は、地方勤務の折、NPOと行政と一緒に社会課題を解決する取組みや、公の施設の管理、東日本大震災の被災地支援などを担当しました。現場には一人ひとりの生活の苦しみや地域の抱える課題がありました。制度や施策は、現場の課題に応え、実際に機能し運用できるものでなければ意味がありません。様々な経験を通じて、そんな当たり前のことに気づかされ、現場を意識し目を向ける大切さを教えられました。

福岡から東京に戻って直後の職場は、国会の中にありました。官邸とともに、政府の国会対応全般を取り仕切る仕事です。内政・外政全般に渡って、総理や官房長官の名代として衆参議員と対面する緊張感と局面を動かす政治のダイナミズムの中で、日々行政官としての立ち居振る舞いを問われたように思います。得難い経験を通じて学んだことが多くありました。



民の世界から見えるもの

今は公益法人行政の担当をしています。公益法人の多様な活動に触れる度に、そこに地域や社会の課題があることを実感します。地域や社会の課題に真摯に向き合う公益法人が、数多く活躍する、そんな社会を夢見ています。そのためにも、民間の有識者の嗅覚と識見を最大限に発揮して、適切な審査・監督を行う必要があります。そこに公益法人行政の醍醐味があります。

行政の機能向上や守備範囲の見直しといった、オーソドックスな行政管理・行政改革は大事です。同時に、これからは、企業、大学、NPOなど社会を担う多様な存在に目を向け、彼らが活躍し易い環境を作ることや、行政との連携やイノベーションが生まれ易い仕組みを作ることが大事です。公益法人行政はその試金石でもあり、大変な魅力と可能性を感じながら、仕事に取り組んでいます。

納得のいく仕事をしよう

私たち行政官の仕事は、法制度を企画立案し、運用することです。

どのような政策分野でも、国でも地方でも、基本的な思考や所作は大体同じだと思いますが、とりわけ総務省は、行政を規律し、国民と行政を繋ぐ諸制度を所掌しますので、そこには、様々な

立場に思いを馳せることができる、そんな想像力と視野の広さ、そしてバランス感覚が求められます。これまでお話してきたように、総務省という役所は、活躍できるフィールドが広く、そこが魅力の一つです。ポストが人を育てるという面はありますし、様々な環境での経験は人生を豊かにしてくれます。人としての成長が行政官としての成長にもつながります。

私自身未熟ですが、置かれた立場で、将来の社会のために今何が出来るのか、ひたむきに考え、この国の礎を築いた先人達や次代を生きる子ども達に恥じることのない、納得のいく仕事をしたいと思っています。志ある皆さんと出会い、刺激し合いながら、一緒によい仕事ができる日々を楽しみにしています。



家族との大切な時間